

政治経済講演會速記 第三二號

昭和八年二月九日講演

フランクリン・D・ルーズヴェルト著

# 公明政治論

群馬県立図書館  
中島文庫



昭和八年二月九日

フランクリン・D・ルーズヴェルト「公明政治論」

Franklin D. Roosevelt: Government — not Politics, New York 1932

國政研究会

7140

注意事項

- 資料は大切に扱います。
- 資料は転貸借はお断りします。
- 15日間の期限に必ず返して下さい。
- 資料を汚損または紛失した時は同一の資料又は相当代価を弁償していただきます。

群馬県立図書館  
前橋市日吉町一丁目14-8  
電話 (0272) 3008番

フランクリン・D・ルーズヴェルト

『公明政治論』

一、解説

池野氏編述

私のご紹介致しますのは昨年フーヴァーと戦ひました

見事榮冠を得た五月から大統領になりました。フランクリン・

ルーズヴェルトの政見集であります。ルーズヴェルトが

政見を発表したものが纏った本としては是一冊ありだけ

の様であります。

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title 'Franklin D. Roosevelt's Political Philosophy' and other illegible characters.

公明政治の意義

公明政治の意義とは、国民の利益を代表し、国家の発展と平和を期すことにある。

公明政治の意義とは、国民の利益を代表し、国家の発展と平和を期すことにある。

公明政治の意義とは、国民の利益を代表し、国家の発展と平和を期すことにある。

公明政治の意義とは、国民の利益を代表し、国家の発展と平和を期すことにある。

公明政治の意義とは、国民の利益を代表し、国家の発展と平和を期すことにある。

公明政治の意義とは、国民の利益を代表し、国家の発展と平和を期すことにある。

公明政治の意義とは、国民の利益を代表し、国家の発展と平和を期すことにある。

2.

本書の「政府」は「Government - not Politics」

此の「政府」は「ガブアメント」ノット「ポリティクス」

「政治」の「政治」は「政治」の「政治」

「公明政治」として置きました。其のことは就ては

十寸中に述べられてあります。政治には「政治」と

いふは「政治」の「政治」

「政治」の「政治」

「政治」の「政治」

「政治」の「政治」



か渡りまして大佐を御紹介致したいと思っております。

全作も讀みまゝと斯う多小ことかあり様に見受けられ

ましたりいじめを申しませうと。昨秋の通り昨年の政戦

に於てまゝとルールがエルトの執りまじらぬと云ふも

のは消極的の、自分の政策を民衆に知らせたりしや戦小

と云ふ態度を執りませぬがフリーターの不人気と云ふも

のを利用し、物とフリーターの否定と云ふことに中心

を置いたの如く、隠して建設的を積極的を具象と云ふもの

当社の表現と審みこまか出ました。

要ら

らむに

に

思は元来風をのめく

するを、い、う。

と一、輝發的を思作業の表示かすいことは注目し適する。

Faint handwritten text on the right page, mostly illegible due to fading.



とも重米利加の職業的はよい。尤も純然たる地方的政  
 治に於ては職業的の政治家といふものも容れざる餘地  
 が無いとは申し居ませぬ。随て政界に乗り出す者が  
 財政的の安定を擁護するに違入りませぬといふことは其の個  
 人に依りては十々の墮落を豫定させるやうな者も有り  
 たり。而も<sup>又社会</sup>金銭的の腐敗の空氣を作るといふことは極言  
 して居りませぬ。併し<sup>勿論</sup>財政的の安定と云ふものは必しも富と  
 云ふ意味の富が少くとも財政的の安定は得られぬ。

八ノ廿五 牛込神樂坂下 山田紙店 C

(Faint, mostly illegible handwritten text on the right page, possibly bleed-through or very light ink.)



のだがと云ふことを一應断つて居りませう。詰りさうしませ  
 むと所謂カモフラージュと云ふ小思想には当難なさい款があ  
 りませう。さうして何故財政の定案のさい者が政治界に集出  
 政治の腐敗をかと言つば、政治界に居る期間と云ふもの  
 は比較的短い、而も其の間に何か一化率して富を得よう  
 と云ふ気が動くのは常がある。是が政治腐敗の原因と云  
 つて来ると申して居りませう。又それに附加しまして、元  
 来腐敗と云ふものは組織機構に基くものといはせよ、終始

政治界に居る期間と云ふものは比較的短い、而も其の間に何か一化率して富を得よう  
 と云ふ気が動くのは常がある。是が政治腐敗の原因と云つて来ると申して居りませう。又それに附加  
 しまして、元来腐敗と云ふものは組織機構に基くものといはせよ、終始







整理の必要がある。と申しつけよう。

租税に關し、關税の問題に就て、先簡單に論述さ

す。現行の重税附加の關税は、實に基いて改

訂し、なければならぬ。それ以前に其の以前に某税

の控り、高關税に依り保護政策とす。は、即ち

利加之貿易とす。其の如何に阻害し、否かを、

即ち要米利加之は、自国の産業を保護す。

高關税を掛けたが、相手の如何に對して報

11. の目的は

Faint handwritten text in the right column, mostly illegible due to fading.

復園税を掛けた ~~おの~~ 其処が園税の引上は何等も貿易の改善  
 に ~~た~~ <sup>役</sup> ~~た~~ <sup>た</sup> かつた ~~と~~ <sup>と</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~り~~ <sup>り</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> 此処 ~~の~~ <sup>の</sup> 園税障壁の引下げに就  
 して ~~述~~ <sup>述</sup> ~~べ~~ <sup>べ</sup> ~~る~~ <sup>る</sup> ~~事~~ <sup>事</sup> ~~を~~ <sup>を</sup> 唯 ~~一~~ <sup>一</sup> ~~寸~~ <sup>寸</sup> 此 ~~の~~ <sup>の</sup> 附加 ~~の~~ <sup>の</sup> 申上 ~~が~~ <sup>が</sup> 在 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~と~~ <sup>と</sup>  
 あり ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~事~~ <sup>事</sup> ~~を~~ <sup>を</sup> ~~引~~ <sup>引</sup> ~~下~~ <sup>下</sup> ~~げ~~ <sup>げ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 考 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> も 相 ~~手~~ <sup>手</sup>  
 と ~~同~~ <sup>同</sup> ~~じ~~ <sup>じ</sup> ~~の~~ <sup>の</sup> 協 ~~定~~ <sup>定</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 依 ~~つ~~ <sup>つ</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> 引 ~~下~~ <sup>下</sup> ~~さ~~ <sup>さ</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~方~~ <sup>方</sup> ~~法~~ <sup>法</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 出 ~~る~~ <sup>る</sup> ~~の~~ <sup>の</sup> 考 ~~へ~~ <sup>へ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~い~~ <sup>い</sup> ~~の~~ <sup>の</sup>  
 と ~~思~~ <sup>思</sup> ~~ふ~~ <sup>ふ</sup> ~~事~~ <sup>事</sup> ~~は~~ <sup>は</sup> ~~隠~~ <sup>隠</sup> ~~さ~~ <sup>さ</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> ~~引~~ <sup>引</sup> ~~下~~ <sup>下</sup> ~~げ~~ <sup>げ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 考 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> も 通

あり ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~事~~ <sup>事</sup> ~~を~~ <sup>を</sup> ~~引~~ <sup>引</sup> ~~下~~ <sup>下</sup> ~~げ~~ <sup>げ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 考 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> も 相 ~~手~~ <sup>手</sup>

周 ~~知~~ <sup>知</sup> ~~引~~ <sup>引</sup> ~~下~~ <sup>下</sup> ~~げ~~ <sup>げ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 考 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> も 相 ~~手~~ <sup>手</sup>

か ~~い~~ <sup>い</sup> ~~る~~ <sup>る</sup> ~~地~~ <sup>地</sup> ~~の~~ <sup>の</sup> ~~考~~ <sup>考</sup> ~~へ~~ <sup>へ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~い~~ <sup>い</sup> ~~の~~ <sup>の</sup>

思 ~~ふ~~ <sup>ふ</sup> ~~事~~ <sup>事</sup> ~~は~~ <sup>は</sup> ~~隠~~ <sup>隠</sup> ~~さ~~ <sup>さ</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> ~~引~~ <sup>引</sup> ~~下~~ <sup>下</sup> ~~げ~~ <sup>げ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 考 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> も 通

復園税を掛けた ~~おの~~ 其処が園税の引上は何等も貿易の改善  
 に ~~た~~ <sup>役</sup> ~~た~~ <sup>た</sup> かつた ~~と~~ <sup>と</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~り~~ <sup>り</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> 此処 ~~の~~ <sup>の</sup> 園税障壁の引下げに就  
 して ~~述~~ <sup>述</sup> ~~べ~~ <sup>べ</sup> ~~る~~ <sup>る</sup> ~~事~~ <sup>事</sup> ~~を~~ <sup>を</sup> 唯 ~~一~~ <sup>一</sup> ~~寸~~ <sup>寸</sup> 此 ~~の~~ <sup>の</sup> 附加 ~~の~~ <sup>の</sup> 申上 ~~が~~ <sup>が</sup> 在 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~と~~ <sup>と</sup>  
 あり ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~事~~ <sup>事</sup> ~~を~~ <sup>を</sup> ~~引~~ <sup>引</sup> ~~下~~ <sup>下</sup> ~~げ~~ <sup>げ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 考 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> も 相 ~~手~~ <sup>手</sup>  
 と ~~同~~ <sup>同</sup> ~~じ~~ <sup>じ</sup> ~~の~~ <sup>の</sup> 協 ~~定~~ <sup>定</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 依 ~~つ~~ <sup>つ</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> 引 ~~下~~ <sup>下</sup> ~~さ~~ <sup>さ</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~方~~ <sup>方</sup> ~~法~~ <sup>法</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 出 ~~る~~ <sup>る</sup> ~~の~~ <sup>の</sup> 考 ~~へ~~ <sup>へ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~い~~ <sup>い</sup> ~~の~~ <sup>の</sup>  
 と ~~思~~ <sup>思</sup> ~~ふ~~ <sup>ふ</sup> ~~事~~ <sup>事</sup> ~~は~~ <sup>は</sup> ~~隠~~ <sup>隠</sup> ~~さ~~ <sup>さ</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> ~~引~~ <sup>引</sup> ~~下~~ <sup>下</sup> ~~げ~~ <sup>げ</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~す~~ <sup>す</sup> ~~に~~ <sup>に</sup> 考 ~~り~~ <sup>り</sup> ~~ま~~ <sup>ま</sup> ~~し~~ <sup>し</sup> ~~て~~ <sup>て</sup> も 通









ある。 第一 高利貸があり、<sup>の大量の借入の</sup> 要金利加 第二 高利貸の着目  
 ぼろまされて居る、第三 下層の奴隷と云うて居ると云ふ  
 ことは恥づべきことでは有りか。 第一 少くも 第二 非常な力  
 を入れ、第三 貸し出しの復興金融会社の貸出までも  
 大抵は会社企業の方に回らされて居る。 第四 第五  
 個人企業には殆ど及んが居ない。 第六 是が所謂高利貸のつけ  
 目である。

第二の権取機構は投資金融機関があり、第三、第四、第五

又、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百

フライ  
 ヴェート・バンク・ハリスとか、インベストメント・トリス・トリス・トリスの  
 方が非常に世間を欺いたやり方をしております。現在の指  
 算計算に立脚しないので、単に「豫想利潤」といふものを目的  
 とし、非常に澤山の企業が為さる。之を助長した。が、  
 今申し、組織がある。其心で斯う書いた投資方面の弊害  
 に対しては法律に依りまして株式の分割を禁止し、起す  
 べき事業の性質、会計の方法を明示せしめ、様にして、  
 れは、いけなうと書つて居ります。

(Faint handwritten text in a grid format, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.)

我々には会社合同乃至合併の依りまして民衆の金を巻  
 上げること加非常に流行つた。是は民衆が会社の合同乃  
 至合併の従来に於ける成績と云ふものに因けりて居つた  
 からであらう。従来は成功と云ふものは必しも会社の合同  
 合併と云ふこととせられ自身から生れたりしが、其の事  
 時に於ける重利の産業の発展の傾向の波に乘つてか  
 為に成功したりのあり。けれども民衆には内部の金融の  
 の不健全と云ふものが見えたりつた。フナニシアル、才

八ノ廿五 牛込神樂坂下 山田紙店 C

(Faint handwritten text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side of the page.)

オルがナイザアの非常な責任に蹂躪されて仕舞うた。  
 某の分指と致しまして、<sup>即ち</sup>ファイナンスマン、オルがナイザア付或  
 の企業の合同を回りました。コミッションを受け、更に  
 進んで業通株を賣うて特別の報酬を得、而も此の用<sup>業通</sup>株  
 又は民衆に賣りまして、賣切れるや否や其の存士として、  
 片にナイザアと名乗るものは<sup>此の</sup>企業から手を引くの筈である。  
<sup>かくして</sup> 民衆と名乗るものは<sup>かくして</sup>ファイナンスマン、オルがナイザア  
 に引摺られる場合が多いのである。

(Faint, mostly illegible handwritten text in a grid format, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

更に却(回)の機構と致しましては、持株会社を筆印として居り  
 ます。理未利加の赤いし、<sup>新株会社</sup>が力のハズと申します。あ  
 り大株支配会社と申します。所謂企業内部の支配を自  
 的として居るものがあります。それが過大資本化され  
~~ます~~と所有と経営とが分離を来しまして、所有と名刺も  
 経営に對して支配力が弱く、なると化舞ふ。<sup>其処で</sup>統  
 営者が直ちに場合には因循に行くのがあり、手を加へ併し  
 实例としては、川り不承承の筆印が、<sup>本</sup>

1代目と2代目の関係が、このようにある。

1代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

2代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

3代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

4代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

5代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

6代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

7代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

8代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

9代目は、大株を握り、経営を一手に執る。

10代目は、大株を握り、経営を一手に執る。



了、而も此の向題は遅れれば遅れ、程簡單に思つ方々に  
 あり能りの<sup>少</sup>なり様を救済策を講ずること加困難にちりて  
 来り。ナリし<sup>元来</sup>物價が漸落の傾向をとりて行しのが民衆  
 は金を物に換へる氣持が出ない、<sup>のこあつて</sup>それが現在の不況の<sup>根</sup>底  
 をなして居る。の<sup>レ</sup>ありと、<sup>レ</sup>自今<sup>レ</sup>の見<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>を以てすれば、重  
 米利加の民衆と云ふものは現在消費して居るより遙かに  
 上に消費することから出来の<sup>レ</sup>ありと云ふべき。分<sup>レ</sup>断  
 イニフ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>ン<sup>レ</sup>を行か<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>外、<sup>レ</sup>デ<sup>レ</sup>フ<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>ン<sup>レ</sup>を行か<sup>レ</sup>と

*[Faint handwritten text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.]*



空んとしては農業対策に相違、  
 表取しきき利益の一として農業者と  
 きとバツクをあらう居るといふ  
 ありきや。

六、  
 農業対策に就て申す。元来民主党の代  
 表取しきき利益の一として農業者と  
 きとバツクをあらう居るといふ  
 ありきや。

かに、  
 のりありすか、  
 くに、  
 ありきや。

力を入る。

改訂

空んとしては農業対策に相違、  
 表取しきき利益の一として農業者と  
 きとバツクをあらう居るといふ  
 ありきや。

六、  
 農業対策に就て申す。元来民主党の代  
 表取しきき利益の一として農業者と  
 きとバツクをあらう居るといふ  
 ありきや。

かに、  
 のりありすか、  
 くに、  
 ありきや。

費して居るものありき。農業は工業に較（比し）ば甚しく需用  
 の減退に應じて供給を制限をすよと云ふことは不可能で  
 ある。而も重歩利加に於ては小麦と綿花がけのも平方の  
 十の人口を養つて居る、是等の人口に購買力（購買力）を与へると去  
 ることは、果は重歩利加経済の回復と云ふことに大歩利（大歩利）  
 戦に於ては、（先づ）多量人工の必要方格、即ち杖道並用  
 ひでも農業の救済と云ふことは必要ありと云ふに居り  
 ます。是はルースが本トの属します民を費の支拂から

~~農業は工業に較ば甚しく需用  
 の減退に應じて供給を制限をすよと云ふことは不可能で  
 ある。而も重歩利加に於ては小麦と綿花がけのも平方の  
 十の人口を養つて居る、是等の人口に購買力を与へると去  
 ることは、果は重歩利加経済の回復と云ふことに大歩利  
 戦に於ては、多量人工の必要方格、即ち杖道並用  
 ひでも農業の救済と云ふことは必要ありと云ふに居り  
 ます。是はルースが本トの属します民を費の支拂から~~

市況も右の如きありと思ふなり。それかうプー  
 の施政中 ~~中~~ 農 ~~業~~ 対策として最も力癩を入れし  
 一九二九年に設立せられた聯邦農事局 ~~が~~ 是は  
 唯 ~~政~~ 府 ~~が~~ 小麥の營業に従事せし ~~大~~ 規模 ~~を~~  
 せよと ~~考~~ へたこと ~~と~~ ありし ~~も~~ 變り ~~は~~ ない ~~の~~ である。现实的  
 に見て ~~現在~~ 小麥は ~~一~~ ブ ~~ツ~~ シ ~~ン~~ に ~~付~~ け ~~て~~ 五十五仙に ~~下~~ っ ~~て~~ 居る。  
 (附 ~~戦~~ 争 ~~直~~ 後 ~~リ~~)  
 高い時 ~~には~~ 二百仙を超えて居る ~~が~~ ~~今~~ からは ~~一~~ 百 ~~五~~ 十 ~~五~~ 仙に ~~下~~ っ ~~て~~ 居る。  
 十五仙 ~~は~~ 非常に ~~下~~ っ ~~て~~ 居る ~~が~~ ~~今~~ からは ~~一~~ 百 ~~五~~ 十 ~~五~~ 仙に ~~下~~ っ ~~て~~ 居る。

(Faint, mostly illegible handwritten text in a grid format, possibly bleed-through from the reverse side of the page.)

的に農業者と対峙するのは、非常な社会的に不公平を従来加  
 へられて居る右の如きものである。これは申述もなく工業商税に  
 依り業者の控取である。勿論工業商税と課する場合は  
 は農業商税も併引合に引上せしむ、即ち一九二二年  
 に際し一九二〇年の商税の改正に際し、一九二二年  
 相当高率の農業商税が課せられたるに依り、一九二二年  
 更に茶の税率が増された。

イ。農業者の控取。用。

元来

(Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page)



~~了。 一般の所は園税を引下げると言つて、此の  
 農業対策は勿きましくは農産物の園税を減果あしやうに  
 課すると言つて居るが、ありませぬ。又農業の内部の確  
 保するところは、是は恒久的な政策にあつたと言つて居る。此  
 の農産物の考は、既に申しませぬ土地の利用と云ふことには  
 非常に現れられ居る。其の外農産物の効果のあつた様  
 々農業園税を掛けるには、かゝる言ふかと思ふと、イウオリ也  
 ーシヨーン、フー、フー、を実行すれば宜い。此のイウオリ也~~

~~此の園税は、農産物の生産に  
 影響を及ぼす。其の程度は、  
 農産物の種類によつて異なる。  
 例へば、果樹の園税は、  
 農産物の生産に大きな影響を  
 及ぼす。一方、野菜の園税は、  
 農産物の生産にそれほど大きな  
 影響を及ぼさない。~~



此の小麥の總收穫高を仮に八億ブツェンとし、その内の  
 需用を六億ブツェンとし、<sup>海産物</sup>と二億ブツェンとを小麥が餘  
 分に作り、海外輸出に充てる。此の命を海外へ投出して他  
 舞<sup>ふ。</sup>の國稅を仮に四十二仙とし、世界の小麦相場を一  
 弗と仮定致しますと、その内の小麦の價格と云ふものは大  
 体此の兩方を合せると、その一弗四十二仙と云ふ。所  
 以餘分の二億ブツェンは海外へ出すのにおよから世界の  
 小麦相場に支配される款があり、<sup>二億</sup>此の命は四十二

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading.]*



仙の商税と名小のりを受け、利益は少い、即ち其処が八千四百  
 美弗の十二（換え）に入ります。併し反對此書へは是れ品内の小麦相  
 場が四十二仙に上つたから、此の十二を全作か  
 ら見ると、十仙半と名小は十二に入ります。それがいくらなりか  
 一し、コシ、フナトと名小のぼろ、即ち手数料をいくらオラうか  
 すよと名小やり方改め、此の十二は重歩利加  
（平均化）  
小麦  
 品内の生産者が市場に出し、ます小麦の量に從つて負担す  
 る。併し此の場合に小麦の生産者と名小のりは前記申し

此の小麦の相場は、概して八割の相場に上つたから、此の十二を全作か  
 ら見ると、十仙半と名小は十二に入ります。それがいくらなりか  
 一し、コシ、フナトと名小のぼろ、即ち手数料をいくらオラうか  
 すよと名小やり方改め、此の十二は重歩利加  
（平均化）  
小麦  
 品内の生産者が市場に出し、ます小麦の量に從つて負担す  
 る。併し此の場合に小麦の生産者と名小のりは前記申し



事。ルIが...  
 主として...  
 し...  
 土地の...

土地の...

地...  
 内...

地...

加...

(Faint handwritten text on the right page)













会政策をやると教しまし<sup>に</sup>ても失業手当てを<sup>に</sup>よむものになり  
 ますと<sup>は</sup>是は弊害が多い、即ち働かなくなると食べられ<sup>る</sup>とも  
 小の急情を<sup>二</sup>急命を<sup>一</sup>養ふ<sup>二</sup>と<sup>一</sup>小の根本の見方のやりか  
 ありませ<sup>二</sup>・セ<sup>一</sup>し<sup>二</sup>一方は<sup>一</sup>指を<sup>二</sup>は<sup>一</sup>は<sup>二</sup>地<sup>一</sup>は<sup>二</sup>租税負担と<sup>一</sup>小  
 ことにな<sup>二</sup>ふ<sup>一</sup>のがあり。此の失業手当てと<sup>二</sup>小<sup>一</sup>のは非常に重  
 米利加の社会の問題に<sup>二</sup>在<sup>一</sup>る言葉がありませ<sup>二</sup>・<sup>一</sup>けれども  
 ル<sup>二</sup>ス<sup>一</sup>が<sup>二</sup>エ<sup>一</sup>ルトは、それは<sup>二</sup>ア<sup>一</sup>ク<sup>二</sup>セ<sup>一</sup>ン、<sup>二</sup>バ<sup>一</sup>ースに依つて、  
 言の據へませ<sup>二</sup>・<sup>一</sup>れ<sup>二</sup>保<sup>一</sup>険<sup>二</sup>計<sup>一</sup>算に依るや<sup>二</sup>り<sup>一</sup>が、<sup>二</sup>他<sup>一</sup>からの<sup>二</sup>支<sup>一</sup>給金  
 アクセリ<sup>二</sup>ア<sup>一</sup>ベース  
 地  
 評  
 評  
 評

会政策をやると教しまし<sup>に</sup>ても失業手当てを<sup>に</sup>よむものになり  
 ますと<sup>は</sup>是は弊害が多い、即ち働かなくなると食べられ<sup>る</sup>とも  
 小の急情を<sup>二</sup>急命を<sup>一</sup>養ふ<sup>二</sup>と<sup>一</sup>小の根本の見方のやりか  
 ありませ<sup>二</sup>・セ<sup>一</sup>し<sup>二</sup>一方は<sup>一</sup>指を<sup>二</sup>は<sup>一</sup>は<sup>二</sup>地<sup>一</sup>は<sup>二</sup>租税負担と<sup>一</sup>小  
 ことにな<sup>二</sup>ふ<sup>一</sup>のがあり。此の失業手当てと<sup>二</sup>小<sup>一</sup>のは非常に重  
 米利加の社会の問題に<sup>二</sup>在<sup>一</sup>る言葉がありませ<sup>二</sup>・<sup>一</sup>けれども  
 ル<sup>二</sup>ス<sup>一</sup>が<sup>二</sup>エ<sup>一</sup>ルトは、それは<sup>二</sup>ア<sup>一</sup>ク<sup>二</sup>セ<sup>一</sup>ン、<sup>二</sup>バ<sup>一</sup>ースに依つて、  
 言の據へませ<sup>二</sup>・<sup>一</sup>れ<sup>二</sup>保<sup>一</sup>険<sup>二</sup>計<sup>一</sup>算に依るや<sup>二</sup>り<sup>一</sup>が、<sup>二</sup>他<sup>一</sup>からの<sup>二</sup>支<sup>一</sup>給金  
 アクセリ<sup>二</sup>ア<sup>一</sup>ベース  
 地  
 評  
 評  
 評

激を和らげられたりがある。さうして一九三一年に州  
 一三三二(一) 社  
 社事会議に提出された。失業保険案を少しも出さ  
 ず、斯うな小様なことをやりなさい、重いなさい、  
 ます。結局失業保険と云ふ小ものにはなれない、  
 それをやりますと勿論労働者は助かるとし、保険計算に基

八ノ廿五 牛込神樂坂下 山陽鐵道 C

会... 失業... 保険... 計算... 基...

いと居るの如くありませうから、国民の租税負担と云ふことは、  
 関係は深い。尤も従来は州が色々なことをして、例へ  
 ば公営事業を起しまして、税捐するやうなやり方を、  
 して居るが、随て租税負担がそれだけ重くなるので居るが、  
 の如くありますから、斯うなふうな言つても租税負担の方  
 は寧ろ軽減され、ことになりました。又失業手当と違つて、怠惰  
 な気風を養はなうで済むと云ふ所の如く、失業保険制を主張し  
 て居るの如くあります。

(Faint handwritten text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side of the page.)

きんから定は載せし置きませぬがしなが、ル一不中工

ルAには公共事業経営に對する一つの考があるのがある

ます。勿論是は微弱な存在でありまが、~~免~~に南公~~運~~事業

に對して~~統~~統制が必要である、而も其の統制と云ふは

必要に迫られ、は官管に進行の行くはなれないと

な立場を執りておるが、元來公運事業と教しきしりも

一書問題と有りますは電力のありましり、之に對して

クーリゲとかフリーカアなどの政府は実業には絶体は不

ハ、公運事業行公案

一級民衆の福利上

元

7

*[Faint handwritten text on the right page, mostly illegible due to fading]*



此の、諸局のありさま  
 及び、私学會社の策動する所とありまじり有耶無耶  
 ありて化舞ふ。又電氣會社の他公其事業をやりまじり書記  
 は判決に月日のかゝる私利と染つてかか事す。  
 如訴法手続に依つてやううとしませうと、先張り巨額利如  
 におも派法と云ふものは違ひやうかありまじり、例へば紐  
 着の電法料金の内題に就て訴法が起つたことがありませう  
 か、これは確か七年が掛つたといふことありませう。若し  
 公堂に事案は  
 公堂に事案は  
 公堂に事案は

此の、諸局のありさま  
 及び、私学會社の策動する所とありまじり有耶無耶  
 ありて化舞ふ。又電氣會社の他公其事業をやりまじり書記  
 は判決に月日のかゝる私利と染つてかか事す。  
 如訴法手続に依つてやううとしませうと、先張り巨額利如  
 におも派法と云ふものは違ひやうかありまじり、例へば紐  
 着の電法料金の内題に就て訴法が起つたことがありませう  
 か、これは確か七年が掛つたといふことありませう。若し  
 公堂に事案は

れはきりきり。又ははルリがエルトの短事時代の大き  
 を化事として傳へられ居るが、紐育州の  
 知事マクをやり居る時にセント・ロイスに百二十  
 五馬力の発電所を扱へたが、勿論紐育州の  
 需用電力と云ふものは此の八倍にもなつたが、  
 中、其の八分の一だけを公管に依つて供給するに  
 あり、  
 是が日本の公設市場の管他の様を正合に、  
 兎に南電気会社の料金を多小の対して千エックをす

(Faint, mostly illegible handwritten text in a grid format, possibly bleed-through or a second page of notes.)

Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading.

役目を果して居るの如くあるとルリ不十分トは大いに苦  
 つて居るの如くある。然らば、絶作の如く、公債事業  
 在り公債に正と持の如くか不十分。この二の間に同様に、役  
 トはさうは申し居るが、いふはありませぬ。非常に曖昧を  
 生レ溢レい言ひ方をして居るの如くありませぬ。即ち私営の会社  
 が正金を料金乃至サーガイ入を行使をかつた場合に十分  
 注意を加へて、その如くも利ヲかをかつたをうらば、原も其の  
 條件が非常に重大な条件がある。其の地方の政府に





いかと思ひます。実は此の電力公営論の中に更米利加  
 の所謂統制経済への傾向と云ふものを得るかどうが  
 と云ふことは一つの肉題でありませうか、ル一不ウエ  
 ルトの立場は今申上げた様を立場でありませう。非常に纏  
 りませぬが甚だ恐縮でございますが、是で報告を終了こ  
 とに致します。

(終り)

*[Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading.]*



(精 = 一)

2. 敬告 441211

2. 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211

3. 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211

4. 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211

5. 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211

6. 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211 敬告 441211

群馬県立図書館



0707140-0